

平成 29 年(2017 年)度 6 月 理事会議事録

I. 日時： 平成 29 年 6 月 8 日 (木) 19:10～21:54

II. 場所： 神奈川県作業療法士会事務所

III. 理事会定数

出席理事： 錠内、野々垣、木村、金山、吉本、佐々木、奥原、神保、玖島、遠藤、作田、村越、澤口、佐藤、大郷 計 15 名

欠席理事： 野本、名古屋

出席監事： 田中、糊沢

欠席監事： なし

その他： 出口(広報部班長)、山口、宮沢(書記)

IV. 議長団選出

議長： 錠内会長

副議長： 金山事務局長

議事録署名人： 大郷理事・田中監事

V. 配布資料

事務局／財務部／学術部／教育部／広報部／福利部／地域リハビリテーション部／制度対策部／ウェブサイト管理委員会／学会評議委員会／公益法人化対策委員会／生活行為向上マネジメント推進委員会／認知症対策委員会／地域包括ケアシステム推進部／渉外・会議参加報告

VI. 回覧資料

1. 神奈川県保険医協会「第 26 回在宅医療・介護セミナー」事業報告書
2. 一般社団法人日本作業療法士協会「介護保険施設等における寝たきりゼロのためのリハビリテーションのあり方に関する調査研究事業」研究報告書及びガイドブック
3. 一般社団法人神奈川県精神神経科診療所協会「神奈川県精神神経科診療所協会誌 vol117」
4. 第 16 回神奈川県作業療法学会「プログラム」
5. 一般社団法人日本福祉用具供給協会「福祉用具貸与サービス事業所におけるサービスプロセス及び価格設定ガイドライン」
6. 広島県作業療法士会「刑務所における高齢受刑者の就労支援に向けたプログラムの試作と作業療法士の養成」
7. 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会かながわ人材センター「本件における介護人材の確保・育成・定着に向けた効果的な方策について」
8. 一般社団法人日本作業療法士協会「状態象に応じた効果的な福祉用具利用のためのガイドライン」
9. 公益社団法人理学療法士会「育休・産休に伴う人員確保に関する調査報告書」
10. 公立大学法人首都大学東京「総合事業における効果的な IADL 改善プログラム実践マニュアル」

VII. 平成 29 年～30 年度担当理事について（会長より）

会長	錠内会長	副会長	野々垣理事・木村理事
事務局長	金山理事	財務部	吉本理事
学術部	佐々木理事	教育部	奥原理事
広報部	神保理事	福利部	玖島理事
地域リハビリテーション部	遠藤理事	制度対策部	野本理事
規約委員会	名古屋理事	ウェブサイト管理委員会	作田理事
学会評議委員会	村越理事	公益法人化対策委員会	澤口理事
生活行為向上マネジメント推進委員会	木村理事 *兼任	認知症対策委員会	佐藤理事
地域包括ケアシステム推進委員会	大郷理事		
監事	田中監事・糊澤監事	特別顧問	渡邊特別顧問

上記担当で了承を得る。

VIII. 今年度の三役会・理事会について（三役から）

(1) 三役会の在り方について

1) 三役提案

三役会(会長、副会長、事務局長)の決定権が強すぎて各理事の自由な討論が出来ていないため、交通費や会議費は出ないがオープン参加を可能としてはどうか。そもそも三役会について定款や規約にないため、名称も三役会から理事会準備会などに変更し、理事会を進めるための準備をする会として開催していきたい。

2) 理事意見

- ・色々な方に参加してもらえる方がよい。OT協会は運営委員会という名称なのでそれでもよいのではないかと。オープンな会との事だが、どこまで参加できる形にするか。例えば、全理事が参加するくらいでもよいのか。(澤口)
→準備の段階で相談や確認したい方がいれば三役から参加要請を行う予定。オープンとは誰でも参加できる、開かれた会という意味合いが強い。(木村)
→今までも必要のある方は三役会に召集されていたが、誰が出席したのか、どのような議論がなされたのかを知る術がなかった。三役会の時点で報告・相談を直接したいから参加した、というのもいいのではないかと考えている。(野々垣)
- ・理事会で議論の時間を持つことが難しいこともあった。テーマが絞られればと思う。また、それぞれの部で一杯になるだけでなく、横につながっていくことも考えていかないとならないと思う。(澤口)
- ・どうしても審議してほしい事があるときに参加していた。基本は必要な部・委員会の参加になると思うが、オープンになることでこちらから提案や相談が出来るのはありがたい。(吉本)
- ・三役が中心となる事や透明性をもった三役の仕切りがあった方が組織としてしまると思う。神奈川の中心になろうと立候補した人が三役になっているし、資料として部・委員会も資料を提

示しているのに、三役会の議論の内容を補足資料等で理事に提示していればいいのか。名称は同じでもいいのでは。(神保)

→今までの三役会との違いとして、これまでの理事会は議論する時間が持てなかったことに問題意識を持っている。(木村)

→これまでの理事会は提出されている内容の報告に時間が割かれており、議論ができていないのではと考えている。理事会で議論ができるよう、議論する内容を三役会で整理できればいいのでは。(野々垣)

(2) 理事会の在り方について

1) 現状の課題

報告事項に関する時間が多くなっており、理事同士の議論が出来ていない状況。そのため、審議事項を決め、ポイントを絞り審議する。なければならないでもよい。最優先に議論してほしい所を記載できるフォーマットに変更する。限りある会議時間の中で、どこを優先的に議論するのかを三役会で整理し、理事会へ提案していきたい。またそうすることで中・長期計画への反映がされることで、現在若干不透明になっている、会としての方向性が話し合えるのではないかと。

2) 理事意見

- ・優先順位はだれが決めるのか。(神保)

→そこを三役会で検討したいが、だからこそ、「うちの部の、この議題はとても大切です」と三役会で説明してくれる人を出してもらえると理解が深まると考えている。(野々垣)

- ・以前は企画調整委員会がどの方向性で会を進めていくかという事を検討していた。その役割を三役会になったことで見えにくくなった部分もあるのではないかと。部・委員会をこえて、一理事として意見をいえる場になれば。三役会での優先順位の決定権については会長になるのか、試しながら決めていく形になるのか。(澤口)

→どのような進め方をすれば理事会で議論が活性化するか検討していく必要がある。(野々垣)

- ・フォーマットを決めるのは他の会議でもやっている。(澤口)

→フォーマットを統一する事で、理事会議事録の公表を早める意味もある。(木村)

→同じフォーマットを使うことで見やすくなるし、情報公開を速やかに行えるのでは。(野々垣)

- ・理事にも責任がある。例えば、事前に流される各部・委員会の資料に目を通すことで、分の部・委員会だけでなく、他の部がどのように考えているのかなど把握するなど、三役会に参加している理事だけでなく、参加していない理事も準備しておく必要がある。そうはいつても、2カ月に1度の理事会では議論をするにも限度がある。準備会やワーキンググループなどが多方向の考えができるようヒントをくれるのだろうか。(作田)

→会の方向性が共有できていない現在は難しいかとは思ふ。(木村)

→だとしたら、メーリングリストをもっと活用してはどうか。メーリングリスト等を議論の場にしてみるのはいいのでは。メーリングリストでの記録が議事録と同じ価値があるようにしたらいいのではないかと。(作田)

- ・いいと思う。三役会と理事会をセットで考え、三役会である程度、方向性を絞る形だろうか。ただ、議論も大事だが、現状を把握する事も、そこから当会がどうしていったらよいか考えていければよいと思う。(奥原)
 - 時期によっては議題が決まってしまうところもあると思うが、今年度何を達成しなければいけないのかという事が今のところあるわけではないので。(野々垣)
 - 慌ててやるというよりはじっくりと、例えば公益法人化や地域包括ケアシステム、ブロック化についての勉強会等をできてもいいのでは。(奥原)
- ・理事会が検討する場になることはいいこと。限られた時間で物事を前に進めるための議論をするためには、三役会後に資料でどのような事を審議していきたいのか、どこまでは決めたいという事が明確にしないと論議はできないのではないかと。三役会と理事会の間が短いので資料をまとめる担当が大変なところがあるが、そこがクリアできれば論議の場になり、とてもよいと思う。(佐藤)
 - 考える期間が短いのであれば、三役会を1週前倒しし、かつ、次の理事会での審議事項を三役から提案することで考える時間がもてるか。(野々垣)
 - 式次第で審議事項を提案してはどうか。(澤口)
 - 時間が決まっているので審議できることは2-3つかと思うので、それほどたくさんは盛り込めないと考えている。(野々垣)
 - 多くの部門があるので、その会で審議の場が持てなかったとしてもいつまでには審議するなど共有できるとよい。(佐藤)
 - 今年の様子を見つつ、年間計画ではないか、このポイントは外せない時期・部門を優先に、その他の審議をどのように組み込んでいくか探っていく感じになるか。(野々垣)
 - 年間の見通しを三役で検討してもらおうと同時に、理事とも共有する工夫という意味で三役の準備をお願いしたい。(佐藤)
- ・意義はない。新理事は議題をどこで誰に相談すればいいのかわからないと思うので、三役会の中でも誰が誰をフォローするかは決めておいてもいいのでは。三役会から理事会までに時間があれば他部門へもメール等で相談がしやすいのではないかと。今は三役会のフィードバックが数日前だったり、相談したメールの返信がないまま理事会になることもあるので。(村越)
- ・意義はない。メーリングリストでの情報共有は膨大で難しい事がある。サイボウズライブなどを利用していいのでは。理事会は決めなくてはならない場なのでウェブ上で議論をすることもできるのでは。また、相談する場としてもウェブ上での情報共有も活用していければいいのではないかと。(大郷)
- ・引継ぎも含めて前理事にすべて相談している状況。メールでの情報も目を通してはいるが、追いついていないので事前にどのような事を審議するのかわかるとよいと思う。(玖島)
- ・メールの情報量についてはやはり追いつけない状況はある。理事会に関しては時間が限られているので有意義な会議にする工夫は必要だと感じる。(佐々木)

(3) 新人理事へのフォロー体制について

- ・常に事務局長がフォローしていたが、一人では難しい。いつどのような事をやらなくてはなら

ないのかの目処が立たない為、あらかじめ相談する相手を決めておいたほうがよい。仕事に慣れていないのにメールでの情報量も膨大なので、相談できる人を決めておいた方がいいのでは。例えば話しやすい人、担当理事の業務に近い人など。そういうのも含め、三役に相談できればいい。(村越)

→三役の役割としてフォローもあると再認識した。(野々垣)

→新任の方にすぐに引き継げるような資料が今はない。新人の理事の先生に聞きながら作成していく必要があるか。(木村)

→誰がやってもできるように資料を作っておかなければならない。前任者が引継ぎをすることと、現担当者がスムーズに業務ができるところまでサポートするのが前任者の務め。新任のサポートは副会長の役目と考える。理事は自分の担当部署のこともあるので。(田中)

⇒副会長の中でフォローが出来るよう早急に検討する。

(4)部員の兼任について

1) 現状の確認

部員の兼任は基本的になしとしてオブザーバーという形で参加する事となったが、各理事の意見を聞かないままに方向性がしめされたので、再度検討したい。また、研修会等を企画する部・委員会ではイベントのために人員が必要だが、今後は企画班と当日運営班を分けることも検討してもよいのではないかと考えている。今年度というよりは次年度以降の検討という意味合いが強い。

2) 理事の意見

・兼任になるのかどうかを確認する事も大変。本人のやりたい希望があるのではあれば兼任もいいのではないか。企画班だけでは成り立たないので担当以外の人も手伝ってもらっている。できるだけたくさんの人に県士会活動に参加してもらいたいという気持ちもある。(奥原)

→今回は兼任はなしとの形を取った為、少なかったのではないか。(木村)

・地域包括システム推進部は兼任が難しいという事で部員が半分に減った経緯もある。やる気のある会員の方から新しい人員を引き込んでくれると思うし、そうでないと県士会も前に進んでいけないと思う。本人が希望すれば兼任はいいのでは。一応担当理事には一言いっておいた方がいいとは思いますが、断ることでモチベーションが下がってしまう方がどうなのだろうか。(大郷)

・広報部ではイベントに合わせて先方の都合の良い時間(平日・休日・夜・昼間等)もある為、ある程度の部員数がいた方が動きやすい。兼任に関しては、本人の強い希望と理事の承諾をもって行うことが基本であり、勝手に行うのはやってはいけないと思う。その部員本人が混乱しないように理事が知っておく必要はある。(神保)

・兼任をなしとしたのは裾野を広げる意味合いがあった。その目的を理解していれば兼任もいいのではないか。兼任しているかどうかは情報を共有しておかないと業務の負担が多くなってしまふこともある。兼任で終わるのではなく他を探したり、後輩を育てるという気持ちでやっていけばいいのでは。(澤口)

・学術部の中でも部門ごとに兼任してはならないとの事だったのだが。(佐々木)

→内規があるわけではない。部の慣例だと思われる。もしかしたら兼任した方がいいこともあるかもしれない。(野々垣)

- ・すそ野を広げることは大切。また本人が希望するのであれば兼任もよいと思うが、兼任していない部員の負担が大きくなってしまいう可能性がある。その調整をするのは理事の仕事であると思う。部・委員会として計画していたことが回らないようでは本末転倒だと思うし、極端な例だが、やりたいといえる人は自分のやりたい仕事をして、いえない人がやりたくない仕事をしているというのはいかがなものかと思う。今現在と長期的な視点の両方を考えないと、兼任する人が増えてきた場合困ることもあるのでは。(佐藤)

→すそ野を広げている方向で話を進めていきたい。兼務に関しては担当理事が兼務している人の業務量の把握と他の人に負担がかかっていないか調整できるか吟味しながら行うという方向でいきたい。(野々垣)

→兼任するのは関連する部・委員会である事が多いと思う為、部門ごとのコラボレーションという形を取る事も一つの方法であると思う。(佐藤)

- ・部員の承認は2年任期の為、次年度というのは2年後のことか。(作田)

→部員の承認は追加で行う事ができるため、調整していく事は出来るか。ただし、削減という審議は行ったことはないため、部員を大幅に変える事は二年後になるか。そのための準備期間となるかもしれない。(野々垣)

→今年度は今回の提案で行っていくことになると思うが、実際、兼任になるからと断った人もいる。

→もし兼任がいいのであれば、次回以降の理事会で承認もできるのでは。兼任する人が多くなり、佐藤理事のご指摘のような負担感があるようなら報告してもらい、対応を検討したい。(木村)

- ・これだけ企画があるとイベントが重なることも想定される。その時に兼任した人がどっちに出るのか迷うこともあるかもしれない。当日運営班と企画班を整理したうえで、本当の兼任の形を具体的に話し合ってもいいのでは。(田中)

- ・そもそも自分の部・委員会にどのくらいの人数が必要なのかまで検討しきれていなかったのかもしれない。限られた予算のなかでの活動なので。(大郷)

→OT協会も会議費や交通費の削減のため今年度からコアで動く人とそうでない人とをわけはじめています。当会は会費収入がメインなので、単年度決算のなかで部員のことも考えていけないといけませんが兼任もありという方向で内規や兼任のルールについてもう少し話し合いを持っていきたい。(野々垣)

⇒継続審議とする。

(5) 理事の立ち位置について

- ・理事は担当理事となっているがその部・委員会専属ではないので、県士会全体を見渡す役割があると思うので、コラボ企画や常に相談しあう立場だと思う。(木村)

- ・担当理事に直接相談する事が出来るよう理事の連絡先一覧があるといい。(大郷)

⇒作成してメーリングリストで共有する。

IX. 審議事項

1. 事務局

- (1) 再入会の件（未納会費納入済み／口座振替依頼書受理） ⇒承認

及川 弘輝 コトノハ訪問看護リハビリステーション

鈴木 久江 相模原市役所 地域包括ケア推進課

- (2) 部員の承認 ⇒承認

福留 大輔（事務局次長）

魚岸 実弦・山口 悠里・平山 康一・横山 早紀・池田 公平・宮沢 優・大郷 郁美・

明立早香・岩切七彦・森田千秋

高橋真喜子・鎌田快予・松村啓子・武内千秋（事務局専従）

- (3) 後援依頼⇒承認

- 1) 神奈川県病院協会「第36回神奈川県病院学会」

日程：平成29年11月13日 場所：神奈川県総合医療会館

- (4) HCRでの東京都士会への協力について ⇒承認

日程：2017年9月27日～29日の3日間 会場：東京ビッグサイト東展示ホール

経緯：東京都士会を中心にブースを持つとの打診が47委員会にて都士会長 田中先生よりあり

27日に第1回の会議があり、協力体制について都士会より説明がある。

要請内容：3日間の人材派遣（2-3人×日）交通費と弁当代の士会の捻出

方向性：今年度は神奈川県士会として事務局を窓口に関与する。次年度以降も継続の場合、制部での協力としていく。

2. 財務部

- (1) 部員の承認 ⇒承認

西村彰紀

3. 学術部

- (1) 部員の承認⇒承認

- 1) 会計担当：林慎也

- 2) スキルアップ研修

①身体障害系：田中秀和・重田明日香・梶原真樹・井上那築・佐藤慶一・川端遼磨・渡部喬之・峯

②精神障害系：西前英紀・川口敬之・斎藤梢・江川純香

- 3) 学術誌担当

①編集委員：白濱勲二（編集委員長）

②査読委員：秋本浩・内山博之・川口敬之・窪田聡・坂本安令・坂本俊夫・坂本豊美・澤口勇・

篠崎雅江・須鎌康介・高橋香代子・高橋博美・机里恵・早川裕子・林純子・福留大輔

藤本幹・渡邊誠

- 4) 研究助成担当：石川哲也・佐々木祥太郎・佐々木洋子・宮崎道輝・渡部喬之

5) オブザーバー：福留大輔*事務局と兼任

4. 教育部

(1) 部員の承認 ⇒承認

本藤広美・福田舞・大場文・石井有希・金子康・藤原康子・木村亮太・荒井裕大・関口直也・
奥田奈津子・高林剛・金木貴芳・磯貝優花・川本ひかり・山本真理子

5. 広報部

(1) 部員の承認 ⇒承認

- 1) ニュース班：出口 弦舞（班長）・山岡 洸・安田優子・丸岡ちひろ・佐藤 愛・井部賢吾・松井洋鷹
- 2) 対外広報班：酒井由香里（班長・県央地区企画長兼任）・水野友和（横浜地区企画長）・佐藤隼（相模
原地区企画長）・久保田友佳（会計）・有田健吾（会計補佐）・増田理恵・原 萌夏・
福島ひとみ・丸井智子・天野沙織・松本佳代子・額谷文太・平田康太郎・荻野耕一・
竹村祐樹・大道伊奈子・花形真

3) 全体会計：山本潤

6. 福利部

(1) 部員の承認⇒承認

池嶋孝二・岩切美帆子・荻野祥代・加世田翼・勝山基史・須崎可奈子・田中達也・畠中佳代子
松岡 太一

(2) オブザーバー 吉本雅一

7. 地域リハ部

(1) 部員の承認 ⇒承認

- 1) 会計担当：金沢隆之、早川大貴
- 2) 研修担当：原島淳・青木紀恵・西浦淳一郎・佐藤範明※・浅黄真紀子・山田祐衣・足立恵美
小椋瑛里・中川智美・札野優・渋谷拓郎・森木勇一郎・高森麻貴・湯澤大輔
井上亜紀子・佐藤麻裕子・坂内大祐・一木愛子
- 3) 普及担当：岩崎竜弥・山崎純一・佐藤夢莉耶・佐藤隼※・木下剛※
※他の部員兼任

8. 制度対策部

(1) 部員の承認 ⇒承認

- 1) 福祉用具班：沼田一恵（班長）・金原衣理子（会計）・木村亮介
- 2) 研修会（明日から使える環境スキル）：中村元樹・山崎あゆみ・加藤結花里・高吉亮平
- 3) 相談支援支援システム（モデル事業）&情報発信（ブログ）：田畑雄吉・石渡大地・宮田和典・
近藤由希子・長田美奈子
- 4) 社会保障制度対策事業班：山根剛（班長）・西 則彦（自動車運転とOT担当）・前田智恵子（特別支援

9. ウェブサイト管理委員会

(1) 部員の承認 ⇒承認

福嶋祐子・甲本夏穂・佐藤範明・浅井翔伍

(2) 県士会サイトの利用方法の説明会の開催について⇒承認

日程：8月の土日祝（候補：8/5, 11, 12, 26, 27）

目的：県士会サイト「お知らせ」「掲示板」への情報発信の仕組みと依頼方法（原稿作成のコツ）

参加：各部署の担当理事（任意）とウェブ担当者・「県士会活動☆あらかると」投稿担当者

10. 学会評議委員会

(1) 部員承認 ⇒承認

内山 博之

(2) 今後の学会、大会開催について

1) 第16回神奈川県作業療法学会

日程：平成29年7月2日 会場：神奈川県立保健福祉大学 学会長：玉垣努氏

2) 第3回臨床大会・第17回学会

大会長、開催場所、日程について未定。7月2日の県学会で大会長の紹介があるため、臨床大会を開催するのであれば7月2日までに大会長、開催日程・開催場所を決定する必要あり。

- ・臨床大会は1年程度の準備で行えるような、学会ほど気負わない内容でと作られたもの。研修会の延長でもいいので1年に1回は集まろうということだったと思う。ただ、それだけの人が集まれる会場が少なくなっているか。会場費は見込んであるが。(田中)
- ・会場を決める所から大会長が動く必要がある。行政へのやり取りも必要となってくる為、経験者が必要。
- ・会場を一から見つけることが負担で断る先生もいると聞いている。長期的な目で見た時には県士会で会場は見つけられるとよい。(玖島)
- ・会場が決定できなかったのが大会長として学会で挨拶したが詳細はいえなかったし、予定していた日程を変更したこともあった。会場を準備してくれるのはいい。内容を決めることだけでも大変なのに会場や後援もするのは大変。(遠藤)
- ・会場を抑えるのも学会評議委員会で行えばいいのでは。(田中)
- ・後援をとるのも行政相手なので慣れた人がいい。(遠藤)
- ・マニュアルを作っていくのが学会評議委員会だったのではないか。結局1からのスタートになっている。(奥原)
- ・2年に1回の県大会だけでなく、1年に1回は集まろうということで始まったと思うので、それが現状の当会とあっているのか、ということは考えてもいいのでは。(木村)
- ・開催月を遅らせる事も一案であるが、新卒者が当会に入会するのが夏までが一番多い。新人研修の流れからしても学習を深める過程として夏の開催が望ましい。(吉本)
- ・若い人の自己研鑽の場はあった方がいいのでは。(神保・遠藤)

- ・フォローしながら若手に大会長や運営を行っていく事もよいのではないか。(大郷)
- ⇒夏に開催する予定で内容等を検討していく。会場に関しては事務局も応援し、学会運営の為のマニュアル作成は学会評議委員が行う。

1 1. 公益法人化対策委員会

審議事項なし。

1 2. 生活行為向上マネジメント推進委員会

- (1) 部員承認 ⇒承認
渡邊隼人・木村勉・三宅純平

1 3. 認知症対策委員会

- (1) 部員承認 ⇒承認
杉本尚久・新山祐貴・小室容子・片切深央・椎野光優・小澤隆
- (2) 認知症の人と家族の会に賛助会員について
他の団体からも賛助会員になってほしいという要望があったときの判断基準が現在はないため、今後検討していく。以前、地域リハ部でも認知症の人と家族の会にコンタクトを取ったことがあるので、団体にコンタクトをとるのはいいこととする。

1 4. 地域包括システム推進部

- (1) 部員承認 ⇒承認
木下剛・片岡直人・中井琢哉・吉田倫子・川上新・山口由花・佐藤佳央里

X. 報告事項

1. 事務局

- (1) 渉外
 - 1) 医療職連合会
 - ①総会
日時：平成 29 年 6 月 28 日（水）18：30～ 場所： かながわ労働プラザ 3 階多目的ホール
- (2) 行政および職能団体関連
 - 1) 神奈川県病院協会より定時総会後懇親会について
日時：平成 29 年 6 月 21 日（水）17:30～ 場所：ホテル横浜キャメロットジャパン
出席者：錠内会長
 - 2) 神奈川県病院協会より第一回学術委員会の開催について
日時：平成 29 年 5 月 17 日（水）16：15～ 場所：神奈川県総合医療会館 4 階第一会議室
出席者：錠内会長
 - 3) 神奈川県地域リハ三団体協議会 会議報告
日時：平成 29 年 5 月 25 日（木）19：00～ 場所：PT士会事務所

出席者：錠内会長、木村副会長

①在宅医療トレーニングセンター事業について

研修企画の中に三団体協議会で行っている研修を取り入れてはどうかという打診があり、会長レベルで今後も審議予定。

②3 疾患ワーキンググループの設置について

心筋梗塞等の心血管疾患：PT、脳卒中：OT が代表委員となる。意見が偏らないよう各分野でそれぞれ代表を選出する事となった。適任者がいれば推薦者を 6 月 11 日までに事務局へ連絡。6 月 19 日に代表者を決定し報告予定。

4) 県保健福祉局より厚生労働省医政局主催「第 44 回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」に関する情報提供

(3) 他団体より情報提供等の周知依頼

- 1) 日本リハビリテーション工学協会「福祉機器コンテスト 2017 開催及び作品募集」→[KAOT-ML:04853]
- 2) 日本精神科病院協会研修会「医原性サルコペニアを作らないために必要なリハ栄養の視点」
- 3) 「SIG 姿勢保持講習会 2017in 東洋大学」
- 4) 平成 29 年度「かながわベスト介護セレクト 20」及び「かながわ認証」への申し込みについて
- 5) 公益財団法人石川県作業療法士会役員改選のお知らせ
- 6) 一般社団法人栃木県作業療法士会役員改選のお知らせ
- 7) 特定非営利活動法人 精神科作業療法協会「第 53 回精神科作業療法協会全国研修会」
日程：平成 29 年 9 月 16 日～17 日 場所：山口県総合保健会館

(4) 協会関連

- 1) 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンスについて→
[KAOT-ML:04810]
- 2) 広報誌“絆”第 38 号の案内→[KAOT-ML:04847]
- 3) 広報誌“絆”第 39 号の案内→[KAOT-ML:04849]
- 4) 第 1 回 47 都道府県委員会資料配信について→[KAOT-ML:04850]
- 5) 映画「八重子のハミング」公開について→[KAOT-ML:04877]
- 6) 作業療法全国研修会
- ①「第 60 回滋賀会場」日程：平成 29 年 10 月 7 日～8 日 会場：ピアザ淡海
- ②「第 61 回新潟会場」日時：平成 29 年 12 月 9 日（土）～10 日（日）会場：朱鷺メッセ
- 7) 平成 29 年度第 2 回 47 都道府県委員会参加について
日時：平成 29 年 7 月 1 日（土）13：00～18：00、7 月 2 日（日）9：30～16：00
会場：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター 参加者：野々垣副会長、木村副会長
- 8) 平成 28 年熊本地震 JRAT 活動検証・研修会～現場でやるべきこと、平時にやるべきこと～
日時：平成 29 年 8 月 5 日（土）13：15～16：15 会場：熊本県立劇場
- 9) 協会への入会手続きについて 協会ウェブで可能になった→当士会 HP へ掲載依頼
- 10) 協会員＝士会員の周知について 今年度かけてニュース、ウェブにて周知していく。

(5) 後援名義使用依頼 承認済み

- 1) 横浜市リハビリテーション事業団「ヨコハマ・ヒューマン&テクノラント2017」→ [KAOT-ML:04824] にて承認
- (6) その他
 - 1) メディカルオンラインの使用料金 7000 円 5 月末日に入金予定。雑費として扱う。

2. 財務部

- (1) 会計説明会の開催
 - 1) 日程：7 月開催予定(3 回程度に分けて開催予定)
 - 2) 対象：会計担当者（地域リハ部、生活行為向上マネジメント委員会、対外広報班、福利部、財務部）

新理事・新監事・変更部署（会計担当を変更する部署の会計担当者）
- (2) 会計担当者についての確認事項
 - 1) 必ず理事とは別に会計担当者を置く（理事の兼務はしない）
 - 2) 会計担当を変更する場合は必ず連絡する
- (3) 会計ファイルの変更更新について
 - 1) 毎月の出納帳簿シートと現金実査調書シートを合体
 - 2) 現金実査調書シートの立会人の署名・捺印欄の削除
- (4) チェック依頼
 - 1) ダブルチェック実施；理事も必ず確認をして、ダブルチェックを実施
 - 2) 確認場所（色分け；出納帳簿の残高と現金実査調書の残高の金額が同じか
 - 3) 監査時の資料提出；赤枠で囲ってある部分を印刷して提出

3. 学術部

- (1) 研修会事業（トピック研修）

「初めて担当を持ちましたシリーズ1年目からの脳卒中の基礎と作業療法のポイント」

日時：平成 29 年 6 月 11 日（日）9:45～12:15 場所：横浜リハビリテーション専門学校

講師：尾崎 聡先生 脳神経外科医師（えびな脳神経外科）

酒井 由香里先生 作業療法士（えびな脳神経外科）
- (2) 学術誌刊行事業
「神奈川作業療法研究 The Journal of Kanagawa Occupational Therapy Research 2018 Vol. 8」の編集・発行を行なう予定。
- (3) 研究助成事業
1 課題または 2 課題を推薦予定。研究課題は複数法人の研究者から構成され、組織で課題にあたる。また関連学会への応募や学術誌等への投稿にて成果を公表する予定。

4. 教育部

- (1) 研修会予定（すべて企画中）

現職者共通研修（全 10 領域）、現職者選択研修(MTDLP 基礎研修、他 1 - 2 領域)、事例報告登録制度に関する研修会を実施予定。

- (2) 生涯教育制度ポイントシール取り扱い（研修会主催者用）に関して
ポイントは自分で申請すること、兼務しても年間2ポイントであること、研修会の運営だけでさらにポイントがつくことはない。参加者として参加すればポイントがつくとの説明あり。詳細は別紙参照。

5. 広報部

(1) ニュース班

1) 発行スケジュール

185号（5月末）が発行済みであること、186号（7月末）が進行中である。

(2) 対外広報班の活動予定

1) 活動報告「相模原市さくらまつり（相模原地区企画）」

日程：平成29年4月1日2日 対象：一般県民

内容：自助具作成（ボタンエイド）体験ブース60セット、自助具展示・介護相談・パンフレット配布

2) 準備企画「ヨコハマヒューマンテクノランド（横浜地区企画）」

日程：平成29年7月28日29日 対象：一般県民対象（近隣住民・学生など）

内容：作業体験ブース・相談ブース

3) 今後の方針

①地区に分けた活動に向け、部員増員を予定。

②今年度より県央地区（海老名・厚木・座間）を新設。啓発企画を検討していく。

⇒地区について今後のブロック化にあわせた検討と部員の人数や同一施設に部員が偏っていることについて企画班と当日運営班のすみ分けの検討について質問あり。人数を含めた、実施内容に対する効果判定について検討しており、アンケートの実施を予定していると神保理事より説明があった。

6. 福利部

(1) 求人・求職の登録および情報提供(平成29年4月1日～5月27日)

1) 新規掲載依頼：のべ23件(うち有料2件) 2) 変更依頼：のべ2件 3) 削除依頼：のべ8件

(2) 新入会員オリエンテーション&歓迎会班

日時：平成29年6月11日(日) 学術部研修後(12時15分から)

場所：横浜リハビリテーション専門学校 地下1階

内容：①新入会員の歓迎 ②県士会の紹介 ③今年度の県士会事業の紹介④日本作業療法士協会の歩み(DVD視聴)など

7. 地域リハ部

(1) 研修会について

1) 研修会企画

①多職種精神保健福祉セミナー 日程：平成29年11月25日(土) 予定

②地域リハビリテーション人材育成研修会 地域包括ケアシステム編 日程：秋頃

③地域リハビリテーション人材育成研修会 介護予防編 日程：秋頃

④難病リハビリテーション講習会 2017 日程：平成 30 年 2～3 月 予定

⑤地域における特別支援学校など講習会 日程：未定

(2) 神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会の報告

1) 三士会長会議 *事務局より報告

2) 今年度研修会計画について

①訪問リハビリテーション実務者研修会

日程：平成 29 年 7 月 8～9 日 会場：横浜リハビリテーション専門学校

②地域ネットワークミーティング

日程：平成 29 年 9 月 10 日予定 会場：ウィリング横浜

③神奈川県訪問リハビリテーション学術大会

日程：平成 30 年 1 月 21 日 会場：横浜市健康福祉総合センター

(3) その他

1) 平成 29 年度 第 8 回訪問リハ・地域リーダー会議（訪問リハ財団主催）

平成 29 年 5 月 19～20 日開催（各 POS 県士会代表最大 2 名選出）⇒遠藤理事、佐藤準部員参加

内容：昨年度の訪問リハビリ財団報告、今年度の実務者研修会の要件提示

2) 平成 29 年度生涯教育推進事業（地域リハビリテーション人材育成）

県へ仕様書を提出済み。

8. 制度対策部

(1) 福祉用具対策班

1) 福祉用具に関する会員向け研修会 「明日から使える環境調整スキル」

日程：平成 29 年 6 月 4 日、8 月 5 日、9 月 2 日、11 月 5 日、12 月 2 日

会場：ウィリング横浜

運営方法：理学療法士会環境支援部と共催（参加人数、経費負担は定員割合に応じて負担）

2) 福祉用具に関する情報提供、相談支援

①福祉用具相談支援システム；引き続き運用

②生活行為工夫情報モデル事業；昨年に引き続きモデル事業 2 年目の運用

モデル事業に関する事業費は全て協会制度対策部福祉用具対策委員会が負担。県士会としては①事例投稿を全会員より募集②本事業の活用を他事業と検討していく。

③ブログの活用；引き続き適宜発信

3) 他団体からの要請協力

①H. C. R について

例年協力していた「ふくしの相談コーナー」への相談員派遣（諸経費は HCR 事務局）は、平成 29 年 5 月 27 日開催の「HCR 出展に向けた合同会議（東京・千葉・山梨・神奈川・協会担当委員）」にて、「ふくしの相談コーナー」協会担当委員が行うこととなった。

②川崎市内地域包括支援センターからの「自助具セミナー（仮称）」講師依頼。現在対応検討中。

③株式会社エフスタイル「関節リウマチ患者さん向けの情報誌」取材依頼

自助具に関する特集ページにてインタビュー：錠内会長が対応

(2) 社会制度対策事業班

1) ブログによる情報発信；4月3回、5月4回実施

2) 特別支援教育と作業療法

協会主催「特別支援教育での実践に関する情報交換会（11/4）」への出席と県内の現状報告の依頼あり、対応。

3) 自動車運転と作業療法

協会主催「運転に関する作業療法士の指針説明会および都道府県協力者会議（11/12）」への出席と県内の実態調査及び報告の依頼あり。情報収集のため、各施設へのアンケート実施を予定。その方法を検討中。

(3) 災害対策班

1) 班長候補について

班長候補が見つからない。当面は野本理事が代行。大郷理事にもオブザーバーで参加してもらう。

2) 災害時安否確認システムについて

7月・9月号のニュースで周知。9月号のニュース発送後1週間でデモを実施。意見を募り、11月から本格始動を目指す。

9. ウェブサイト管理委員会

(1) 県士会サイトの管理とアクセス件数 提出資料参照

(2) メールアドレス（メールアカウント）の引継について

使用者が変わる場合①直接担当者通しで引継を行う②前アカウントを削除・新アカウントを申請する

(3) メーリングリストの引継について

管理者が変わる場合は、同じメーリングリスト名でも新たな管理者を登録する必要がある

①新しい管理者が作田理事へその旨を連絡する②前メーリングリストを削除・新メーリングリストを申請する

(4) メールアドレス（メールアカウント）・メーリングリストの新規作成について

1) メールアカウントについて

メールアドレスは無制限で作成することが可能。

2) メーリングリストについて

メーリングリストは30個まで作成が可能（14個作成済み）。原則各部署1個まで。

(5) 県士会サイトへの記事掲載について

別紙記事掲載基準に準じた掲載内容であれば県士会サイトへの記事の掲載が可能。

(6) タブレット端末、スマートフォンへの対応について

1) 現状

①現在の県士会サイトのデザインはPC向けにデザインされており、タブレット端末やスマホでも

同じように表示される

②特にスマホでは表示される文字が小さいため閲覧しづらい（閲覧者の半分以上はスマホ使用か）

2) 今後の対応

今年度中にレスポンスウェブデザインへの変更を実施する予定。移行作業中は旧デザインと新デザインが混在する。作業完了には取りかかり開始から数週間から1ヶ月はかかりそう。

(2) 原稿の依頼 締め切り：6月末

1) 各部・各委員会のページの更新（各理事）

2) 県士会長のあいさつ」のページの書き換え（必要に応じて）

10. 公益法人化対策委員会

(1) 今期の事業予定（当面：平成29年5月頃～平成30年5月頃）について

1) 一般社団法人と公益社団法人とのメリット・デメリットに関する情報及び検討の場を提供し理事会において審議の機会を設ける。（できれば今年度中に理事会で決済）

2) 公益法人格対応の定款及び規約等の検討及び作成

3) 公益法人化に関する情報収集

4) 県内の公益事業に関する情報収集

5) 公益社団法人取得に向けて、規約委員会、財務部、事務局等との連携

6) 会員向けに：「公益社団法人とは」を理解するための研修会の開催（検討中）

(2) 当面の課題

1) 当会における、現状の「公益目的事業について」精査を行う。

2) 理事会への提言：現状でも、公益目的事業を少しずつ行っていく展開を図れないか提言、検討の機会を設ける。

3) 上記と並行しつつ、定款等の整備を関係部署と連携しながら行っていく。

(3) 部員の増員 現在検討中。主に行政職を想定。

11. 生活行為向上マネジメント推進委員会

(1) 研修会開催予定 MTDLP研修、事例作成、事例発表で8回を予定。

12. 認知症対策委員会

(1) 今年度の活動について

1) 認知症対策委員会のブログを県士会サイトに新設・運営（「あらかると」も活用予定）

2) 認知症をにんちしよう会@ハルネ小田原（ステージ&ブース）平成29年10月1日開催予定

3) 研修会開催 今年度中に1回開催予定

13. 地域包括ケアシステム推進委員会

(1) 横浜市地域リハビリテーション活動支援事業について

1) 担当者変更の挨拶 平成29年6月7日に担当の村松みゆき氏を訪問。木村副会長、大郷理事。

2) 派遣依頼（5月29日現在）5件

14. 渉外・会議参加報告

- (1) 神奈川県医療専門職連合会 通常理事会 平成 29 年 5 月 17 日 報告者：錠内会長
- (2) 神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会 平成 29 年 5 月 25 日 報告者：錠内会長
- (3) 第 36 回神奈川県病院学会 第 1 回学術委員会 平成 29 年 5 月 17 日 報告者：錠内会長

以上（文責：宮沢・山口・金山）

XI. 次回理事会開催日時・場所 平成 29 年 9 月 14 日（木） 19:00 より
一般社団法人神奈川県作業療法士会事務所
〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル
301
TEL/FAX 045-663-5997

議事録署名人	議長：	錠内 広之	印
	理事：	大郷 和成	印
	監事：	田中 ゆかり	印